



大橋「金」



【女子400m個人メドレー決勝】優勝した大橋悠依の平泳ぎ—東京アクアティクスセンター

女子400個メ



競泳陣初、日本勢2個目

東京五輪第3日の25日、
競泳女子400m個人メド

レー決勝で日本女子のエース、大橋悠依(25)がイトマン東進が4分32秒08で優勝し、今大会の競泳陣で初、日本選手団では2個目の金メダルを獲得した。この種目では日本初で、2000年シドニー五輪「銀」の田島寧子以来の表彰台。

平泳ぎで五輪2大会連続2冠の北島康介を育てた平井伯昌コーチに師事。貧血などに苦しんだが、人一倍の負けじ魂で乗り越えた。174cmの細身で海外勢にパワーでは劣っても、水の抵抗を抑えた泳ぎを身につけた。

16年リオデジャネイロ五輪後に台頭した。世界選手権では17年に200m個人メドレーで2位、19年に400m個人メドレーで3位と活躍した。遅咲きのスイマーが、たゆまぬ努力を初めて挑んだ五輪で結実させた。

自信じ泳いだ

大橋悠依の話 不安もあったが、とにかく自分を信じて泳いだ。金メダルを取れるなんて本当に思っていなかった。ここに来るまでいろんなことがあったが、チャレンジさせてもらって感謝している。まだ夢みただが、泳いでいて楽しくて、それが本当に自分が水泳をやっている全て。

大橋 悠依(おおはし・ゆい) 競泳女子400m個人メドレー 日本女子のエース。世界選手権は初出場だった17年に200m個人メドレーで銀メダル、19年は400m個人メドレーで3位。滋賀・草津東高、東洋大出、イトマン東進。174cm、57kg。25歳。滋賀県出身。